

館山港^振



千葉県県土整備部港湾課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1

☎043-223-3845

URL : <http://www.pref.chiba.lg.jp/kouwan/index.html>

1. 概況

館山港は千葉県の南端部にある館山市（人口約4万2千人）に位置する地方港湾である。

館山港の港勢圏である安房地方は、房総半島の最南端に所在して三方を海に囲まれ、さらに北部一帯は丘陵地帯で阻隔された地形条件であったため、陸上の交通機関の発達が遅れ、古く徳川時代では地域外との交通運輸は主として海上交通であった。

当時、江戸までは陸路の行程が160kmで、徒歩では約4日間を要したのに対し、海上での行程は46海里（約85km）で、順風のときは帆船で約10時間、押送船といわれる槽かいで漕ぐ船であっても一昼夜で江戸に着いたとされ、安房地方で水揚げされた生鮮魚は海上輸送により江戸の魚河岸まで運ばれ、館山港は安房地方における代表的な天然の良港であった。

明治時代当初の東京・安房間の交通は、帆船あるいは押送船に頼っていたが、明治12・13年頃に地元の運送事業者が当地方初めての汽船会社を創立されたことにより、若干の変遷を経て当地方の海運は明治・大正時代と栄えた。

しかし、大正8年5月に鉄道が館山まで延伸されたため、それまで東京・館山航路で年間5万人余りあった旅客が、この年に9千人に減少した。

一方、海運会社はこれを契機に旅客運送よりも貨物輸送に営業の重点を置いたため、海運の需要は減少せず、大正12年1月には長さ120間（約218m）の館山棧橋が建設された。

昭和5年に海軍館山航空隊が開設されてからは宮城地区の物揚場、泊地等は軍が利用し、漁船及び一般貨物船は一時締出しを受けたが、その後、新たに館山地区に県が港湾の整備計画を立て、昭和7年から12年にかけて総工費23万5千円を投じて東防波堤377m、物揚場（-2m）189m及び導流堤78.6mを建設し、港の形態は一応整備された。

戦後は軍の専用施設が一般に開放され、館山地区の漁業協同組合が宮城地区に移り、宮城地区の物揚場は漁業関係者が利用し、館山地区の物揚場は一般貨物船が利用するようになった。

館山湾は別名鏡ヶ浦といわれるように比較的静かな湾であるが、冬期には西風によって風波が高まる。これにより湾の南端にある本港は北西ないし、北々西の風波の影響を受け、港内の静穏度が悪くなるため、昭和27年に西防波堤231mを新設するとともに東防波堤34mを延長し、さらに宮城地区に

岸壁（-5.5m）50mを建設した。

この後、昭和28年3月25日、港湾区域の認可を受け、千葉県が港湾管理者となった。

従前、本港で扱われた一般貨物は、背後圏である安房・夷隅郡下への飲食品や燃料、家具等の各種消費物資や飼・肥料等の移入及び鮮魚・生花・竹材・白土等の移出が主なものであった。しかし、その後、これらの移出は全く見られなくなり、昭和41年頃から山砂の移出が急に増加した。この山砂は199t型ないし299t型の船によって、東京、川崎、横浜等に積み出された。

このような情勢から、昭和44年から昭和49年にかけて宮城地区の既設の岸壁（-5.5m）に接続する-5.5m岸壁及び臨港道路、昭和49年より昭和51年にかけて物揚場（-4m）を整備した。この間小型船対策としての船揚場の改良及び防波堤等を整備した。

さらに、昭和55年からは老朽化対策として-4.5m岸壁の改良（昭和56年完成）、また公共ふ頭の充実を図るため-5.5m岸壁180mの建設（昭和60年、63年完成）、ふ頭用地の造成等を実施した。

また、平成12年5月には観光・レクリエーション分野での地域振興が期待されるとして「特定地域振興重要港湾」に選定され、平成14年5月には国・県・館山市共同で「館山港振興ビジョン」を策定し、旅客船などを対象とする多目的棧橋が平成22年4月に供用開始した。

多目的棧橋の供用開始後は、「にっぽん丸」をはじめとした大型客船が寄港し、これまで物流岸壁より運航していた高速ジェット船の季節運航が棧橋へと移動したことで、利便性が向上したことから利用客が増加するなど、南房総地域の海の玄関口と呼ぶにふさわしい交流拠点となっている。

また、平成20年12月には首都圏で初めて「みなとオアシス」に認定され、平成24年3月に館山市が多目的棧橋のたもとに整備した「渚の駅」たてやまがオープンした。施設内には館山湾が一望できる展望デッキ、海洋民族をテーマとした渚の博物館、お土産や地元の生鮮品を購入できる物販コーナーやレストランがあり、館山の新しい観光スポット、交流拠点になっている。

さらに防災面として、「千葉県地域防災計画」において、海上輸送施設として定められており、「港湾における大規模地震対策施設の整備構想」（昭和59年8月運輸省港湾局）で緊急物資輸送拠点として位置づけられている。

2. 港勢

入港船舶

種別	合計		500GT 総トン以上		5GT 総トン以上 500GT 総トン未満	
	隻数	総トン数	隻数	総トン数	隻数	総トン数
外航商船						
内航商船	1,072	394,083	46	58,358	1,026	335,725
自航						
その他	370	34,012			370	34,012
合計	1,442	428,095			1,396	369,737

最大入港船舶のトン数 22,472 総トン（※民間船舶のため、喫水は不明）

海上出入貨物

項目	合計	
	トン	%
輸出		
輸入		
計		
移出	5,049	100.0
移入	819,231	100.0
計	824,280	100.0
合計	824,280	100.0

乗降人員

	合計	乗込人員	上陸人員
外国航路			
内国航路	8,148	4,514	3,634
計	8,148	4,514	3,634

3. 港湾施設

区分 埠頭名	けい船施設					荷さばき施設					主な 取扱貨物
	バース名	前面 水深 (m)	延長 (m)	最大 けい船 能力 (DWT)	船 席 数	荷役機械			上屋		
						機械名	揚力 (t)	基数	棟 数	使用 面積 (㎡)	
(公 共)											
館山港	-5.5岸壁第2	5.5	90	2,000	1						
	-4.5大蔵岸壁	4.5	60	700	1						
	-5.5岸壁第1	5.5	90	2,000	1						
	-4.5岸壁第2	4.5	60	700	1						
	-5.5岸壁第3	5.5	90	2,000	1						
	-5.5岸壁第4	5.5	90	2,000	1						
	栈橋-7.5岸壁	7.5	240	30,000	1						
	2号栈橋物揚場	5.0	23	300	1						
(私 設)											
極洋船舶工業(株)	極洋船舶第1浮標	5.5		2,000	1						
	極洋船舶第2浮標	5.5		500	1						
	極洋浮栈橋	5.5	6	500	1						
館山海洋技術学校	館山海洋技術 学校浮栈橋	5.5	13								

